

図画工作科学習指導案

3年2組 35名 指導者 林 智 美

本授業では、以下の検証を行うものである。

思いから広がるイメージを、「見える図」を使って整理したり確認したりしてから製作活動を行うことは、自分の思いを生かして工夫しながら作品製作を行う手立てとして有効であったか。

1 題 材 うれしかったあの気持ち（絵に表す）

2 目 標

うれしかったことを、そのときの気持ちが伝わるように、表し方を工夫して絵に表す。

3 題材の評価規準

- うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを通して、表現することを楽しもうとしている。【造形への関心・意欲・態度】
- うれしかったことやそのときの気持ちが伝わる、場面の工夫を考えている。【発想や構想の能力】
- うれしかったことやそのときの気持ちが表れるように、かき方を工夫している。【創造的な技能】
- 友人と絵を見せ合いながら、表したかったことや表し方の工夫を感じ取っている。【鑑賞の能力】

4 題材について

(1) 題材の価値

本題材は、子どもが、うれしかったことやそのときの気持ちを大切に表し、伝える楽しさを味わうようにすることをねらいとして設定している。

この時期の子どもたちは、興味や関心をもつ対象が広がるとともに、ある程度、対象を客観的に捉えられるようになる。一方、夢や願いをいかたり、冒険心に富んだ表現を試してみたりするなど、想像力を働かせることを楽しむ姿もある。扱える用具の範囲も広がり、自分の表したいことに合わせて材料や用具を使うことができるようになる。また、友人の発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫する場面も見られるようになる。同時に友人の発想やアイデアを利用したり、表し方を紹介し合ったりするなど、周りとのかかわりも活発になる。

そこで、子ども自身の感じ方やものの見方を大切に、見たことや感じたことについて、表し方を工夫して伝える楽しさを味わうことができるようにする。そのために、子ども自身が注目した興味のある部分や、自分なりに捉えた形や色、ものの重なりから、表したいことを発想し、工夫して表現することができるようにしていく。

こうした活動を通して、表し方を試したり、書き方の工夫を重ねたりして表現を楽しむ態度が育つと考える。また、自分なりのイメージを膨らませ、自分の表したい感じになるように、形や色、組み合わせなどの感じを工夫して表現するなど、豊かな発想や構想する能力が高められると考える。

(2) 子どもの実態と指導

これまでに子どもは、自分の感じたことや想像したことから、表したいことを発想して表すという活動を行ってきた。

絵に表すことについてのアンケートでは、「絵をかくことが好き」と答えている子どもは28名、苦手と感じている子どもは7名であった。また、「自分の思い通りに絵に表すことができている」についての質問に対して、25名の子どもができていると感じているようだった。しかし、「作品ができたときに満足しているか」について、満足していると感じている子どもは18名であり、17名の子どもは満足していないことが分かった。満足していない理由として、「どうやってかいたらいいか分からないから。」「かきたいようにならないから。」「もっと工夫できそうな気がするから。」と出てきた。このことから、絵をかくことは好きだが、思ったことをうまく表現する方法を知らず、伝えるための工夫について、もっと知りたいと感じている子どもがいることを感じた。

そこで、本題材の学習では、一人一人が自分の思いをもち、そこから広げたイメージを「見える図」にまとめ、伝えるための工夫を考えながら絵に表すことができるようにしたい。そして、思いを伝える表現方法を交流し、見方や感じ方を広げることのよさや楽しさを味わいながら、活動できるようにしていくこととする。

5 指導計画（総時数 7 時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	1 作品例を見て、作者が、そのとき何を感じ、どんな思いを表したかったのかを話し合う。 2 学習のめあてを捉える。 うれしかったことを、そのときの気持ちが伝わるように表し方を工夫して絵に表そう。 3 作品例を見て、伝えたかった気持ちについて話し合い、気付いたことを生かして、自分の表したいことのアイディアスケッチをする。 【関：うれしかったことやその時の気持ちを絵に表そうとすることを楽しもうとしている。】	1
思いをふくらます	4 伝えたいそのときの気持ちや感じを、見る人に伝わるようにするためにどんな工夫があるかを話し合う。 5 自分の表したいときのアイディアスケッチを基に、「見える図」を使って、表し方の工夫について構想を練る。 【想：うれしかったことやその時の気持ちが伝わるように、表したい場面の工夫を考えている。】	1
思いを表現する／自他のよさに気付く	6 自分のつくった「見える図」を使って、そのときの気持ちが伝わるように、表し方を考えて絵に表す。 7 表現の途中で互いの作品を見せ合いながら製作を行い、自分の表現に生かす。 【関：うれしかったことやそのときの気持ちを絵に表すことを楽しんでいる。】 【技：うれしかったことやそのときの気持ちが表れるように、かき方を工夫している。】	(本時) 4.5
新たな思いをもつ	8 作品紹介カードやプレゼントカードを書き、互いの工夫やよさを話し合う。 【鑑：自分や友達の絵を見せ合いながら、表したかったことについて話し合っている。】	0.5

6 本 時（3／7）

(1) 目 標

うれしかったことやそのときの気持ちが伝わるように表し方を工夫する。

(2) 評価規準

○ うれしかったことやそのときの気持ちを、絵に表すことを楽しんでいる。

【造形への関心・意欲・態度】

○ うれしかったことやそのときの気持ちが伝わるように、表したい場面の工夫を考えている。

【発想や構想の能力】

(3) 指導に当たって

本題材の学習では、これまでに子どもたちは、うれしい気持ちになった出来事について、イメージをふくらませて、自分が絵に表したいことを考えたり、自分の思いを伝えるために、表現の工夫を「見える図」に整理したりしている。そこで、本時では、自分の考えをまとめた「見える図」を使って、自分の思いに合った表現方法で、そのときの気持ちが伝わるように工夫して絵に表す活動を行うようにする。

「思いをもつ」過程では、みんなで考えた「見える図」を使って、気持ちを伝えるためにどのような工夫があったか振り返り、製作への意欲をもつことができるようにする。

「思いをふくらます」過程では、思いを伝えるための方法について、思いに合った線や形、大きさ、配置、かき方など、いろいろな表現の工夫をみんなで話し合い、自分の作品に生かしたいことを考えることができるようにする。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、自分の「見える図」を使って、思いを伝えるための工夫を考えながら、絵に表すことができるようにする。また、グループで、思いを伝えるための自分なりの工夫を紹介し合うことで、いろいろな工夫を共有することができるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、友達や自分のよさを感じ、新しい考えや表現方法を取り入れたり、自分の表現に自信をもったりして、製作活動への意欲を高められるようにする。

(4) 本時の展開 重点化する思考スキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価	
思いをもつ	7	1 前時の活動で作った「見える図」を使って、気持ちを伝えるためにどのような工夫があったか振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなで考えた「見える図」を使って、気持ちを伝えるためにどのような工夫があったか振り返り、製作への意欲をもつことができるようにする。 ○ 自分の思いを伝える工夫をまとめた「見える図」を見て、自分の思いを確認できるようにする。 ○ 自分の思いを伝えるために工夫があることを知り、試してみたいという思いをもつことができるようにする。 ○ 子どもたちの発表を中心に、キーワードを板書し、自分のめあてを考えられるようにする。
		<p>（</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色の使い方を工夫していたね。 ・ うれしい気持ちを伝えるために、はみだしや重なりを使って、見てほしいところを大きくかく工夫をしていたよ。 <p>）</p>	
思いをふくらます	30	2 本時のめあてを話し合い、学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いから広がるイメージと、伝えるための工夫を関連付けることができるように、「見える図」を使って、みんなで話し合うことができるようにする。 ○ 思いに合った表現方法の例を板書資料として準備して、必要に応じて掲示する。
		<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">気持ち、よく分かるように線で表し方をくふうしよう。</p>	
思いを表現する／自他のよさに気付く	30	3 思いに合った線や形、大きさ、配置、かき方など、いろいろな表現の工夫を絵に生かす方法を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いに合った表現方法の例を板書資料として準備して、必要に応じて掲示する。 ※ うれしかったことやそのときの気持ちが伝わるように、表したい場面の工夫を考えている。(ワークシート・活動)
		<p style="text-align: center;">比較する 関連付ける</p> <p>（</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ びっくりするくらいうれしい気持ちの時は、大きさや重なりで工夫できそうだよ。 ・ いいことがあってうれしい気持ちを表すために、あったかい感じの色を多く使う工夫ができそうだね。 <p>）</p>	
新たな思いをもつ	8	4 自分の「見える図」とアイデアスケッチを見ながら、工夫したいところを中心に絵に表す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に絵に表している子どもには、思い表すためにどのような工夫をしているか聞いて、工夫していることを意識できるようにする。 ○ 活動が停滞している子には、思いを伝える工夫について、みんなで話し合っって作った板書資料を参考にして考えることができるように言葉掛けをする。 ○ 作品の中で、工夫した部分と、「見える図」を一緒に並べて紹介することで、思いに合った具体的な工夫が分かり、自分の作品にも生かせる点を考えることができるようにする。
		5 自分の思いが伝わるように工夫したことを出し合い、考えを共有する。	
新たな思いをもつ	8	6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しく加わった考えや思いついたことは、青色で書き込むように声掛けをして、活動を通して再構築された自分の考えが分かるようにする。 ○ 振り返りの視点カードを使って、本時の活動や気付いたことなどを振り返り、友達や自分のよさを感じられるようにする。
		<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">形、色、組み合わせをくふうすると、気持ちよく分かる表し方ができるよ。</p>	
		7 友達の考えを聞いて、新しく加えたい考えや思いついたことなどを書き入れ、次時の学習を確認することで、作品製作への新たな思いをもつ。	

図画工作